

### エゾシカWGで求められている調査項目一覧

- ・この表では原則として、左側に委員からの提案のあった調査項目（曖昧なものを含む）、右側にそれに関連する既存の調査、1番右側の列にその調査項目についての課題を配置した。
- ・委員の提案が特に実現していない調査項目は網掛けした。
- ・「性質」の項目では、既存調査がある場合は既存調査について、既存調査がない場合は委員が提案する調査について、以下のように調査の性質を暫定的に記載した。

- 短・・・1～2年の間隔で行うモニタリング調査
- 中・・・5年程度の間隔で行うモニタリング調査
- 長・・・10年程度の間隔で行うモニタリング調査
- 単・・・モニタリング項目ではなく、単発的調査
- 空欄・・・保留

委員から提案のあった調査項目 分類	大項目	項目	内容	提案委員	性質	関連する既存調査の状況（原則として継続中・実施予定のもの）						当該調査項目の課題
						項目名	期間	期数	財源	実施	備考	
シカ	シカ個体数のセンサス		知床半島のエゾシカ個体数の変動を把握するため、種々のセンサスを行う。	梶	短	ライトセンサス（斜風・半島中（部））	1988～	年2回（春・秋）	斜風町・財団	知床財団	幌別・岩尾別・目の出の3コース、それぞれ約5km 1回に5晩	予算的に先行き不透明。
						ライトセンサス（黒臼・半島中黒臼）	1999-2002	99/11より1回	黒臼町	黒臼町		予算的に先行き不透明。
						全道一斉ライトセンサス（半島基盤）	1992～	年1回（秋）	北海道	乳文会	斜風町+黒臼町それぞれ2コース。1回1晩	
						自然死個体調査（御地区）	1999～	年1回（5月）	知床財団	知床財団	99、2000、03、04年実施	予算的に先行き不透明。
						自然死個体調査（ルシヤ地区）	1999	単発	知床財団	知床財団		継続した実施体制が未整備。
						自然死個体調査（ウトロ・真蕨）	1987～	臨時（2～5月）	斜風町	知床財団		
	シカ越冬地のモニタリング		知床半島における、シカの越冬地と越冬数を航空機を使用して把握する。	梶	短	御台地航空センサス	1988～	不定期（2-3月）	知床財団等	知床財団	88-92年は実施せず	予算的に先行き不透明。
						半島全線へロボットセンサス	2003	単発	環境省	知床財団		次回調査の予定が立っていない。
	シカ季節移動調査		エゾシカに発信器等を付け、知床半島におけるエゾシカの季節移動を把握する。	梶	単	季節移動調査（岩尾別・真蕨）	2004～2006		環境省	知床財団	n = 60? 過去の研究例は、矢部（1988-95）による岩尾別地区（n = 6）、財団（1993-94）による真蕨地区（n = 5）	知床エゾシカ個体管理計画策定のための調査。計画実施後のモニタリングの予定が不透明
						越冬地間遠隔子距離調査	2004?				北大獣医学部へ財団が資料提供	
エゾシカ	個体数調査を行った場合の効果		エゾシカ	単	斜風町金山川周辺を事例としたライトセンサス <sup>1)</sup>	1997～	毎年	斜風町	知床財団	1999年11月より、幹線範囲が拡大	金山川は狩猟による捕獲であり、本格的な個体数調査の効果検証は未実施である。	
					シカの踏圧による、海岸帯根林での土壌浸食の発露把握							
	シカの高山帯への進出のモニタリング		特に高山の希少植物に影響を受けていないか検証する。	エゾシカ	短	無し						
						無し						
	採食田調査（木本、草本）		データの蓄積がある採食田以外の部分（同地区以外のシカ越冬地、あるいは小規模の草場）も含んだ採食田調査	エゾシカ	中	御地区採食田調査	1997～	15年間に8回	道・斜風町等	道産機研・財団	道産機研・梶氏	御等、ごく限られた地域しかデータがない。
					中	御地区ミズナラ林調査	1999～	4年間に3回	道・斜風町等	道産機研・財団	道産機研・梶氏	
					短	御地区防鹿柵（アブラコ柵）	2003		環境省	石川、佐藤・財団	対象区も設置、調査1回	
					短	御地区防鹿柵（エオルシ柵）	2003		環境省	環境省	設置は2003、モニター?	
					短	御地区防鹿柵（黒臼側トリカブト柵）	2004		環境省	環境省		
	年輪調査 <sup>2)</sup>		シカの樹皮剥ぎ嗜好性の高いニレ属、イチイの枯死木から円盤をとり、過去200年程度の間にシカによる食害があったか調査	石川	単	森林生態系保全・再生対策	2003～		林野庁	日森協	防鹿柵内外モニタリング（幌別地区、御地区）、エゾシカ採食圧調査等	知床財団独自事業のため、予算的に先行き不透明。
エゾシカによるイチイの被害調査						1997～		(林野庁)	知床森林センター	イチイ林木遺存資源保存林内		
花粉分析 <sup>2)</sup>		シカの個体群の過去の長期的変動を、シカ糞貯留層の花粉検出状況から把握する。		単						2004年度に実施。来年度は詳細未定。	2004年度に予備調査。来年度は詳細未定。	

1) 知床財団では1997年から金山川周辺のライトセンサスを行ってきた。1999年11月に金山川まで可猟区が拡大したことを受け、捕獲による影響がないかライトセンサスのデータを分析した。  
 2) 管理計画策定のためには、現在の様なシカの増加が過去にあったのかどうか重要な判断材料となる。年輪調査は過去200年程度、花粉分析は過去数千年を対象として、シカによる食害があったのか探るために行う。